

～今後の管理のポイント～

- 適期の収穫に努めましょう。
- 適切な乾燥・調製を行いましょう。

## 1 気象経過

- 気温は4月下旬に平年より低くなりましたが、その後平年より高くなりました。
- 日照時間は平年より多くなりました。
- 降水量は4月下旬，5月下旬にまとまった降雨がありました。

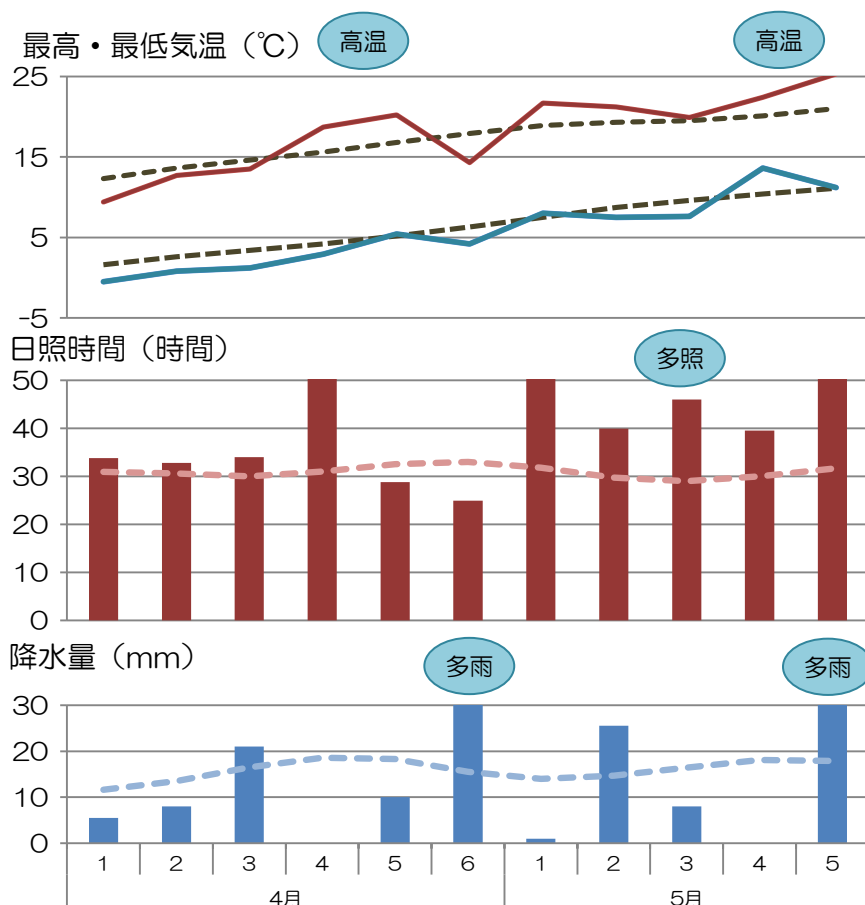


図1 気象経過 (アメダス古川)

※実線又は棒グラフが本年値，点線は平年値

## 2 今後の生育ステージの見通し

仙台管区气象台による向こう 1 か月の天候では、気温が平年並～高いと予想され、成熟期は生育ステージより早まると思われるため、今後の生育状況に注意しましょう。

表1 生育ステージ（実測と予測）

地区名 品種名	播種日			出穂期			成熟期（予測）		
	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年	平年
古川 シラネコムギ	10/19	-10	-4	5/11	0	+3	6/25 ～ 6/30	6/24	6/22

※1 播種日と出穂期は確定日

※2 成熟期は、出穂後45～50日後として予測

## 3 今後の管理

### （1）収穫作業

収量や品質面を考慮し、早刈りや刈遅れのないよう、生育状況・ほ場条件、収穫条件に合わせた時期に行いましょう。

#### ○収穫時期

- ・成熟期は「茎葉及び穂首部が黄化し、粒がほぼロウぐらいの硬さとなった時期」となります（表2）。穀粒水分は、概ね32～45%と幅があります。
- ・収穫作業は子実水分30%以下（成熟期後3日頃）を目安に行いましょう。

※1 出穂後からの日数は登熟期間の気象により変動します。

※2 生育のバラツキが多いほ場では、生育の正常な株に焦点を合わせて判断しましょう。

表2 成熟期の判定

外観の色	茎葉及び穂が黄色くなった頃
子実の色	褐色
子実の硬さ	指で押さえて乳汁が出ないロウ状の硬さ

～ 計画的な作業で刈遅れ防止をしましょう ～  
麦類の刈取りはどうしても梅雨時期に重なってしまいます。  
少ない晴れ間を利用し効率的に作業が行えるよう、刈取りの計画と準備  
を入念に行いましょう！

### ○降雨後の刈取り

麦の収穫は梅雨時期と重なるため、やむを得ず高水分状態で収穫しなければならない場合があります。穀粒水分が高いほど選別不良や損傷粒が増加するので、こぎ胴の回転数は低め（稲用）に設定しましょう。切り替えできない機種では、スロットルを絞るとともに、こぎ胴への穀粒流量を少なくするため作業速度も低下させましょう。

### ○刈分けによる品質低下の防止

- ほ場内で部分的に穂数が不足しているなど生育ムラが大きい場合は、未熟粒の混入を防ぐため、登熟状況に応じて刈分けを行いましょう。
- 赤かび病の被害が見られるほ場については、健全な子実への赤かび粒の混入を防ぐため、被害株の刈分けや仕分け乾燥・調製を行いましょう。

## (2) 乾燥・調製作業

### ○乾化作業

- 収穫後、袋等に詰めそのまま放置すると、水分が高いほど短時間のうちに穀温が上昇し、熱損粒発生の原因となります。刈取り後は速やかに乾燥機に張り込み、通風させましょう。
- 循環型乾燥機を使用する場合は、表3を目安に送風乾燥を行いましょう。

表3 送風温度と仕上げ水分の目安（小麦）

水分		送風温度	
農産物の 検査基準	仕上げ の水分	標準	高水分麦（張込量は60～70%）
12%	11%	45～ 50℃	穀粒水分30%以下になるまで40～50℃ 30%以下になったら標準の乾燥温度

### ○調製作業

- 乾燥が終了したら風選、篩選等で選別します。網目は2.4mm以上（小麦の場合）を使用し、高品質生産に努めましょう。

## 東北地方 1 か月予報

(5月25日から6月24日までの天候見通し)

令和元年5月23日

仙台管区气象台 発表※抜粋

### <予想される向こう1か月の天候 ※東北太平洋側>

期間の前半は、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。期間の後半は、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率70%です。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。日照時間は、多い確率50%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、高い確率60%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

### <向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

		低い(少ない)	平年並	高い(多い)
【気温】	東北地方	10	20	70
【降水量】	東北地方	40	40	20
【日照時間】	東北地方	20	30	50

### <気温経過の各階級の確率(%)>

		低い	平年並	高い
1週目	東北地方	10	10	80
2週目	東北地方	10	30	60
3～4週目	東北地方	20	40	40

### ◆◆◆◆◆春の農作業安全確認運動実施中(4月1日～6月30日)◆◆◆◆◆

農作業中の事故は農業機械によるものが多く、また、機械の転倒や転落が大きな要因となっています。あぜ越えや路肩を走行する際は油断せずに、後方確認を行い足元にも注意しましょう。

重点推進テーマ 「まずはワンチェック、ワンアクションで農作業安全」

### ◆◆◆◆◆農薬危害防止運動(6月1日～8月31日)◆◆◆◆◆

6月から8月にかけて、農作物等の病害虫が発生しやすく、農薬を使用する機会が最も多くなる時期です。農薬安全対策の不備や不注意等による事故が発生しやすくなるため、農薬使用による危害防止と環境に配慮した適正な農薬の使用を徹底しましょう。